

## 少数派の孤独

教育相談専門員 沼波かおり

小学生の頃、名前に「〇〇子」と「子」の字がついていないのはクラスで「みどり」ちゃんと私の二人だけ。しかも当時「かおり」という名は珍しかった？らしく、一年生入学のその日、私の机の上には男の子用入学祝の青い下敷きが置かれ、先生にはひらがなの名前なのに「かおる君」と呼ばれた。ランドセルは男子が黒、女子は赤。これまた判で押したようにみんな同じところに、私だけなぜか山吹色のランドセルだった。

我が家では、親の言うことを聞かないと押入に入れられた。兄姉は暗闇を怖がって、すぐ謝って言うことを聞いたらしいが、私はむしろ押入の暗がり大好きだったので進んで中に入った。押入の中は魅惑一杯だった。重い木でできた戸には隙間があって、暗闇に目が慣れてくると、かすかな光の筋が見え、外の景色が壁に逆さまに映ったり、チンダル現象で空中のホコリがきらきら光ったり、いろいろ珍しいものが見えた。また木戸の隙間から見る茶の間の光景は、いつもと違う世界だった。そのまますやすや眠ってしまい、不機嫌な母に起こされて外に出されるのが定番だった。「お前は困った変な子だった・・・」長じてよく親に言われた。

40歳を過ぎてから「東京ディズニーランド」デビューを果たしたが、子どもの頃夢にまで見たシンデレラ城も、どのアトラクションも、文化祭の張りぼてのように妙にちゃちに見えてがっかりした。リピーターの友人にも、TDLに来てこんな不機嫌な人初めて見た、とあきれられた。

気がつくやうに、たいてい少数派になっていた。他人とは興味を感じるもの、感覚が違うことの方が多かった。それでもみんなと違っていることは、嫌なことではなかった。皆が良いということが正しいとはかぎらないということも学んだし、多数決で決まることの危うさも知った。少数派の孤独のおかげか、「こころの筋肉」が鍛えられたような気がする。

こんなふうだから、友人は多い方ではない。協調性にも難あり。かといってこれで特別困ったという記憶もない。(他人を困らせたかも・・・)。自分と人とは違うということ、いろんな人がいるということ、幼少期に叩き込まれたおかげで、ずいぶん気楽に生きてこられたのも確かだ。自分の考えを曲げてまで、あえて多数派に合わせなければ、という気遣いもいらぬ。そういえば「ぼっち」も悪くない。



### ☆ カウンセラーの先生方が来校されます ☆

本校には次のカウンセラーの先生方が毎月来校されます。「辛いけれど、どうしていいかわからない」という人、「よく眠れない」「食欲がない」「体調が良くない」などの症状がある人は、ぜひ先生方に相談してみてください。秘密は守られますので安心してください。

《カウンセラーの先生と10月の相談日》

- 沼波 かおり先生 (本校教育相談専門員)  
毎週火曜日、木曜日 午後1時～6時
- 堀 智哉先生 (各務原病院 臨床心理士)  
毎週月曜日、金曜日 午後7時～9時
- 鷲見 栄子先生 (社会福祉士)  
10月4日(水)、11日(水)、18日(水)、25日(水) 午後4時～6時

☆生徒のみなさんへ…面談は予約制です。HR担任、教育相談係(教育相談室:本館3階)、養護教諭(保健室:本館1階)の先生のいずれかに申し込んでください。

★保護者の方へ…カウンセラーの先生との面談は、保護者の方のみでも受け付けます。お申し込みは、定時制教育相談係(長瀬・服部・松原)までお願いします。

電話番号は(058)275-7185です。どうぞお気軽に申し込んでください。

★本校の特別支援教育コーディネーターは、服部と松原です。何かございましたら、遠慮なくご相談ください。